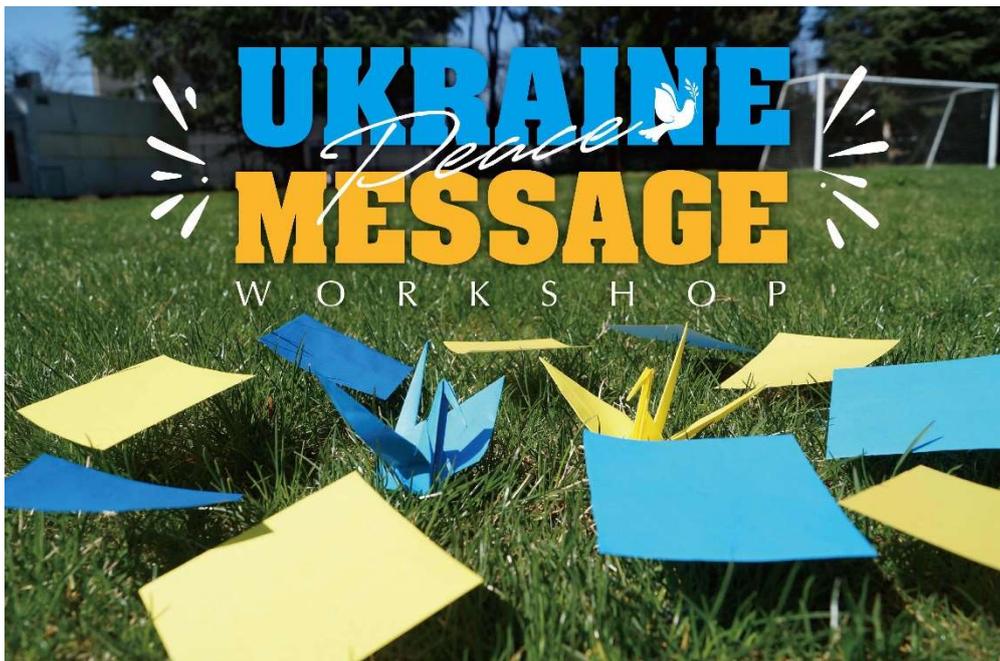


2022.6.4 開催

Ukraine Peace Message Workshop

報告書



開催経緯

私は、昨年令和3年度の8月にユネスコスクール加盟校としてサステナ英語プレゼンテーションに応募しました。

8チームの中に選んでいただき、「広島 memory、平和学習継承のためにできること」についてプレゼンテーションし、同世代の学生とSDGsについて議論する機会をいただきました。

この経験を経て、さまざまな問題についてほかの人と話し合う大切さを学び、私も自ら行動を起こし、平和学習や学生の学習に貢献したいと考えるようになりました。

また、ユネスコスクール事務局がユネスコスクール加盟校同士の交流を支援していると知り、ぜひこれを活用させていただきたいと考えていました。

そして、今年令和4年度の3月に、現在、問題となっているウクライナ情勢について、ユネスコスクール加盟校の生徒の皆様と平和学習の面から議論したいと考え、世界に発信するメッセージを一人ひとりがつくるワークショップを考案しました。

すぐに、昨年サステナ英語プレゼンテーションの担当をしてくださった方に、企画書を添付してご連絡させていただきました。

後に企画のご許可をいただき、ユネスコアジア文化センターの職員の皆様と開催まで連絡をとり、6月4日にむけて準備を進めました。

イベントの目的

- ✓ 中立、俯瞰的な意見交換と、学生同士の交流の促進
- ✓ イベント全体を通して、ほかの学校の生徒との会話することで平和を希求する気持ちを醸成すること
- ✓ 大人の方の視点では気づかないような、また、奇抜であったり突拍子のなかつたりする、しがらみのない学生ならではの、どこか核心をついた意見で、理想の世界の在り方を参加者の皆さんと考える。よって、結論をあらかじめ決めておくのではなく、参加者の学生一人ひとりが、議論を通して自分の結論を見つけることを目指す。
- ✓ ワークショップ終了後、学生たちが書いたメッセージカードを SNS(Instagram)に投稿し、参加者だけでなく、世界中の人々も啓発することができるようにする。

参加者

ユネスコスクール 3校(富山、東京、沖縄) 高校生 計 16名

当日のプログラム

- ① 文部科学省、ACCUによるはじめの言葉
- ② プレゼンテーション:ウクライナ侵攻について、5つの視点(戦況、経済、環境、歴史、世論)から説明

③ 議論

- ディスカッション 1 ペアワーク @ブレイクアウトルーム
「今までの一連のウクライナ侵攻のニュースを見て、一番心が揺さぶられたことはなんですか？
気になったエピソードは？それを見てどう思いましたか？また、それはなぜですか？」
- 意見を全員にシェアする @メインルーム

- ディスカッション 2 ペアワーク @ブレイクアウトルーム
「どうしてそのようなことが起きているのでしょうか？」
「解決するには、どんな方法があるのでしょうか？」
- 意見を全員にシェアする @メインルーム

- ディスカッション 3 ペアワーク @ブレイクアウトルーム
「今または将来、自分には何ができるのでしょうか？」
- 意見を全員にシェアする @メインルーム

④ ペアワーク & メッセージ作成 @ブレイクアウトルーム

- メッセージの内容について
 - ✓ ウクライナ宛て（応援、自分はこんなことをします など）
 - ✓ ロシア宛て（ロシア人にこんなことをしてほしい、呼びかけなど）
 - ✓ 日本政府宛て（具体的にこんな政策うちだしてほしいなど）

⑤ 文部科学省、ACCUによるまとめの言葉

⑥ ワークショップ後、SNSに投稿

- 一人ずつ作成したメッセージをまとめ、SNS（インスタグラム）で発信

議論の様子/発言

ディスカッション 1

「自分が思った事は、現地の人たちの市民の施設が破壊されていると言うニュースを見て、すごく悲惨だなと思いました」

『特にどのような報道を目にしましたか？』

「学校や文化施設、動物園が壊されているのを見て、悲惨だと思いました」

『ロシア軍は軍事施設だけでなく、私たちが使うような一般の民間施設も攻撃していることに衝撃を受けたということですね』

「同様に、罪のない若者や女性が傷つけられているのが一番心に残りました」

『施設だけではなく、そこで暮らす民間人への直接の攻撃もあり、びっくりしたのですね。このように、普通の生活が保障されていると思っていたのに、戦争に巻き込まれ死んでしまうのは悲しいことです。』

「反ロシア派の人たちが、ロシアで声をあげることで捕まったりして、ロシアで声をあげづらくなっているなと思いました。」

『情報統制についてでしょうか。具体的にどんな声があげづらくなっていますか。』

「ウクライナで今起きている真実をあげることが禁止されているから、ロシアの国民は何が本当のことか分からないところで、情報操作が行われていると思います。」

『今はロシア軍の人がウクライナに攻め入っていますが、実際にロシア国内の人がどう考えているのかが気になりますよね。でも、国が情報統制を行なっているので、実際にどんな被害があるのかについては分からない、伝わりにくくなっているそうです。』

「21歳で戦争犯罪により終身刑になり、これからまだある命が戦争によってなくなってしまうことが悲しいです。」

『その21歳の方も、最初はロシアを守りたいという気持ちで入ったのかもしれないですが、今のウクライナ情勢によって国の命令でやらざるを得ない状況になってしまい、その方は犯罪者になってしまいましたが、国自体の統治の仕方も問題になっているかもしれないと考えられますよね。』

ディスカッション 2

「誰が解決するのかについてですが、自分を主語にすると、SNSの媒体を使うしかないと思います。というのも、僕は権力もないので、なかなか難しいと思うのです。そして、SNSを使うとなると、様々な候補はあると思うのですが、ロシア等に送るとすると、結局送ったとしても弾圧されてしまう恐れがあるので、ロシアに送るのではなくて、もっと有用的な、例えば権力を持った他国の人が考えられます。大きなムーブメントを起こすことが大事だと思うので、それができる人たちに訴えかけることが大事だと思います。国内の人が気づいても、かわいそうな目に遭うと思うので、世論を変えて、ムーブメントを起こすことが大事かなと思います。」

『弱い人たちだけではなくて、強い人たちの力もどんどん変えていって、声をもっと大きくしていき、SNSを使って発信していくことも大事かもしれませんね。』

「最初に解決策から話すと、私は、まず今学生とか若い人たちがニュースなどで現状を知らないといけないと思いました。私もそのニュースを見てはいるのですが、上手に詳しくは説明できないですし、ニュースについて知っている人も、見なければ知らないと思うのです。だから、小中高校生達もニュースを見て、加えて学校でも学べる、こういう議論をする機会を増やしたら、もっとそういうことを知って、解決策について考えることもできると思います。また、それを家族に話すことで、様々な世代を通して伝えられるのではないかと思います。」

『ただこういうことが起きたという歴史としてしまってしまうのではなくて、それを勉強して、これから先の未来

に向かって、この歴史からどのようなことが学べるかなど、今起こっているウクライナのこともそうですし、この起こったことを次に活かすために、いろんな世代も人種も問わず、多様な人たちと話しあうことは、もっと増やすべき機会かもしれないですね。』

「具体的というより大きな話になってしまうんですけど、NATO 対ロシアとかで対立関係をつくることをやめた方がよく、また国同士で対立関係をつくることをどうにかできないのかなと思います。」

『たしかに、国同士の対立について、仲が悪いからこのような戦争が起きるのだとも考えられます。そもそも、その部分の境目を無くしてしまえば、こういう戦争も、起きなかったのではないかというような解決の方法も、スケールが大きくて今の世界からは全く想像できませんが、本来はみな同じ人間なので、人間として1つの国をつくって、境目をなくして平和に暮らせるようにするべきですよ。』

ディスカッション 3

「自分たちに何ができるかについて出てきたことなのですが、日本で物を買って、その買った値段でウクライナの人に支援ができるというものがあるって、友達とかにシェアしつつ買ったら良いなと思いました。」

『たしかに、戦争でたくさんの方の避難民の方は、お金も財産も持ち出せずに、ただ身1つで逃げてくるだけで精一杯なほど、必死で逃げてきた人がほとんどだと思います。なので、みなさんほぼ財産を持っておらず、お金を手元に持っていないで、何か物を買うことができない状態に陥っていると考えられます。なので、他の国の周りの私たちがそういう財政的な支援をウクライナに宛ててするのは、とても効果的だと思います。しかも、物を買うだけなら、高校生の私たちでもすぐにできることですよ。』

「私自身、このワークショップの前から、ウクライナとロシアの戦争について、一応は知っていたのですが、内容や、なぜこのようなことが起こったのかということがあまりよくわからなくて、このワークショップやディスカッションを通して知ったことや、初めてわかったことが色々ありました。自分の知って得た知識を、まずは身近な人に伝えて、それをどんどん広げていって、SNS 等でワークショップだったり、事前学習とかで知った知識を広げていき、前述の募金だったり自分たちの少しのお金だったりとかを、ウクライナとかの資金に回していけたらいいなと思いました。」

『たしかに。やっぱり身近な募金が、1番できることとしては、みなさんとつきやすくやりやすく良いかもしれないですね。』

『募金についてお話してもらったので、これと、ほかにこういうことができるのではないかしら思いついた人はいらっやいますか？』

「私はまず、募金とかよりも、様々な視点から意見や情報を取り入れ、どちらかに偏るのではなく、中立的な立場で物事を考えていったほうが良いと思います。例えば国際問題って、国によってそれに対する意見が変わっていくから、色んな視点で意見を理解する方が良いと思います。」

『インターネットを検索するだけでも、テレビのニュースを見ているだけでも、本当に様々なニュースが行き交って、どれが本物のことなのか、またはフェイクニュースなのかということを見極める力をつけることも大

切だと思えます。』

「戦争は、100年前も70年前も第二次世界大戦の時にも起きていて、その時にも戦争っていうのは良くないし、繰り返したらいけないことはもちろん、多くの方が認識していると思うのですが、実際に70年、100年経っていくとやっぱり語る人もいないし語り継がれなくなっていったら、この戦争はやってはならないというこの人類共通の認識は薄れてきているのではないかなと自分は思っています。ちょうど今年ウクライナ侵攻があったので、まずは自分たちが大人になった時にも、忘れずにしっかりとウクライナの侵攻について、次世代に語り継いでいく。自分たちも、いまちょうど侵攻が続いている中なので忘れることはないと思うのですが、侵攻が終わって、5年10年経っていくとどうしても自分たちも忘れがちだと思うので、しっかりとウクライナ侵攻で起きたこと、自分たちがこのウクライナについて話し合ったことを心に留めて、次の世代にその思いを伝えていかないといけないかなと思います。」

『今だけではなくて、これから先の未来のことも考えることはとても大事だと思います。それにプラスして、私も、このウクライナ侵攻は現に今起きていることですが、もう3ヶ月4ヶ月経った今の時点で、あんなに大々的に取り上げられていたウクライナ侵攻についてのニュースが、もう少なくなってきているなあと実感して、こんなに重大なことなのに、すぐに人々が忘れていってしまうのはこれなのかという風に、一人で勝手に気づいてしまって、とてもショックでした。このような歴史があったということ、一人一人がとまではいかないですけど、自分がたくさん勉強して覚えていくことで、二度とこの歴史を繰り返さない、この間違いを繰り返さないということも大事ですし、もっとこれから先の未来について、この話をいずれみなさんが他の人にした時に、周りの人も啓発して、どんどん考えてくれる人も、増えていってくれるだろうと思います。次世代に伝えていくことも、何よりも大事だと思います。』

全体を通しての感想

- ✓ ACCUの職員の皆様に、接続テストの時やはじめとまとめの挨拶、またブレイクアウトルームへの振り分けを担当して下さって、とても心強くワークショップを行うことができました。
- ✓ 始めはとても緊張していましたが、プログラムが進むにつれて、特にディスカッションの段で参加者が活発な議論を交わす様子を見て、緊張がなくなり、ディスカッションを楽しむ気持ちになっていきました。
- ✓ プログラムの終わりには、このワークショップを実施してよかったと感じ、私が本当に楽しんでこのワークショップに取り組んでいることを実感しました。
- ✓ 今回、ACCUの職員の方に多大なご協力をいただき、自身が企画したワークショップの運営をやり遂げることができたことにより、今後の自分の将来への自信につながりました。また、自分の勉強してきたことについて他者と議論できる楽しさを実感し、よりいっそう勉強を重ね、私にできる活動を続けて他者と協力し、よりよい社会のために貢献したいと感じるようになりました。
- ✓ 意見を共有する段においても、参加者全員の前で堂々と発言することができていました。議論を重ねてゆくにつれ、参加者が自主的に発言する場面もありました。
- ✓ プレゼンテーションの分かりやすさを不安に感じていましたが、参加者の生徒の方にアンケートを行っ

たところ、理解しやすかったと回答していただき、よかったです。

- ✓ 本来なら長期的にプログラムを計画すると良いのですが、私の学年という兼ね合いもあり、1日だけの開催になりました。
→今後イベントやワークショップをする際は、より大きな効果を得られるように、長期的な企画にも挑戦したいです。
- ✓ 意見を参加者全員で共有するときに、私が一人ずつ指名する形となってしまいました。本当は、参加者が積極的に発言し、意見が飛び交う環境をつくりたいです。
→初対面の参加者同士の打ち解け方、場の盛り上げ方など、参加者の積極性を引き出すコツを身に着けたいです。



【ワークショップの様子】